

83 遊休桑園を利用した桑の実採取用穂木の接ぎ木による早期成園化

福島県蚕業試験場栽桑部・平成11～12年度蚕業試験場年報

1 部門名 蚕糸一栽桑ーその他 分類コード 09ー01ー99000000

2 担当者 土井則夫・長谷川茂雄

3 要旨

遊休桑園を利用して優良な桑の実採取桑園に転換するため、遊休桑園の桑株に接ぎ木をし、成園化を図る方法を検討した。

(1)遊休桑園の中刈り立通し桑株に接木する場合、

ア 接木法は胴接ぎ法より、切り接ぎ法の活着率が高い。

イ 接木部位は株の支幹部より株の立通し古条部に接いだ場合、活着率が高い。

ウ 活着後伸長した枝条の最長枝条長は切り接ぎ法で長い。

(2)中刈り立通し桑株古条部に品種カタネオ及び大唐桑を切り接ぎした場合、

ア 接ぎ穂活着率は大唐桑(73%)に比べ、カタネオ(90%)が優れる。

イ 活着後伸長した枝条の最長枝条長は大唐桑(146cm)に比べ、カタネオ(204cm)が長い。

ウ 活着後伸長した枝条の倒伏枝条数割合はカタネオ(56%)に比べ、大唐桑(0%)が枝条の倒伏に強い。

エ 遊休桑園の中刈り立通し桑株の立通古条部に切り接ぎした場合、キボシカミキリの被害を受ける恐れがあるため、キボシカミキリ生息地では防除対策をとる。